



キガンビの花



槻沢小の大モミジ

私のまちの
近い
世界遺産

那須野が原の歴史を見守り一世紀…

文化財も生きている

市内には、その豊かな自然を象徴する30種もの天然記念物が点在しています。幾世代もの人々を見守ってきた樹木、レッドデータブックに載っている動植物など、どれも貴重なもの。今回は、意外と知られていない、身近な天然記念物を紹介します。

Topic

えっ、本当は食べられるの!?

○本郷町のケンボナシ

秋になると、果実の根本にある果柄かへいと呼ばれる部分が膨らんできます。この果柄は食べることができ、かじると梨のように甘いとか。

○ノギカワモズク

モズクの名のとおり、食べることができます。見た目はモズクにそっくりですが、ワカメの仲間であるモズクに対し、ノギカワモズクはテングサの仲間です。

○北和田のカヤ

市内に現存する最大のカヤの木です。カヤの木は碁盤や将棋盤として使用されているほか、果実からとれる油は食用や灯火用として利用されています。また、種子はアクを抜くと食べられるようになります。山梨県には、カヤの実を使った郷土食「かやあめ」があります。

※どれも大切な文化財なので、実際に食べてはいけません。

市指定の大山参道のモミジ並木は紅葉スポットとして有名ですが、そこからそう遠くない所に、槻沢小学校の敷地内に、文化財に指定されているモミジがあることを知っていますか？

明治末期（1910年前後）に、卒業記念として植えられたこのモミジは、今では目通り幹周2.5mもの巨木になっていて、秋には見事な紅葉を見せてくれます。昭和54年の学校移転の際も、学校とともに今の地に移され、100年以上も児童たちを見守ってきました。

同じ西那須野地区の大山小学校

にも、キガンビという天然記念物があります。近畿以西の温暖な地域に自生する植物で、8〜10月に黄色い小さな花が咲きますが、冷涼な那須塩原で見られることは大変貴重で、分布地の北限と言えるかもしれません。

なぜこの地にキガンビがあるのかは諸説あり、大山墓所を作るために大山巖の郷土の樹木や土を運んだ際、その土中にキガンビの種子が混じっていて、それが育ったとも言われています。

このようなところにも、開拓の歴史が根付いているのですね。